

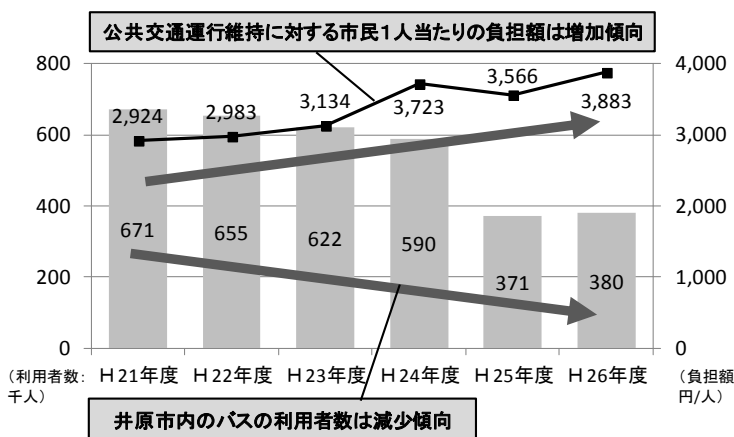


いばら



# 公共交通かわら版

## 市内のバス利用者数と公共交通運行維持に対する負担額



市内のバス利用者数は、5年前に比べて大きく減少しています。一方で、公共交通の運行を維持するための市の負担額は、平成26年度で市民1人あたり約3千9百円であり、増加傾向にあります。

## 1 公共交通の現状 利用者数の減少と市の負担額の増加

公共交通を維持するために、わたしたちが今できること

公共交通を守ることは、私たちの生活や地域を守ることにつながります。どうすれば公共交通を守り続けることができるのか、考えてみましょう。

## 現在、「縮小」の基準に該当する路線

「縮小」の基準に該当する路線については、直ちに減便するというのではなく、あくまで井原市公共交通会議において縮小や廃止の検討をするかどうかの目安とするものです。

予約型乗合タクシー  
高原・高瀬エリア

備北バス  
高梁～井原線  
(H28年11月末廃止予定)

井原あいあいバス(美星地区)  
全路線

予約型乗合タクシー  
峠村・野畑エリア

予約型乗合タクシー  
共和下・川相エリア

北振バス  
井原～美星支所・黒萩・宇戸谷線

予約型乗合タクシー  
天神山・上野・西吉井エリア

予約型乗合タクシー  
荏原・西江原エリア

予約型乗合タクシー  
上稲木エリア

井原あいあいバス  
子守唄の里線

「公共交通の運行見直し基準」の設定・運用  
こうした状況を踏まえ、市では、平成26年に「公共交通の運行見直し基準」を設定しました。平成26年10月から平成27年9月までの実績によると、左の図の路線・エリアが「縮小」の基準に該当しています。これらの路線・エリアについては、利用状況を検証した上で、見直しが必要であるかを今後検討していきます。



## 2 もし、公共交通がなくなったら

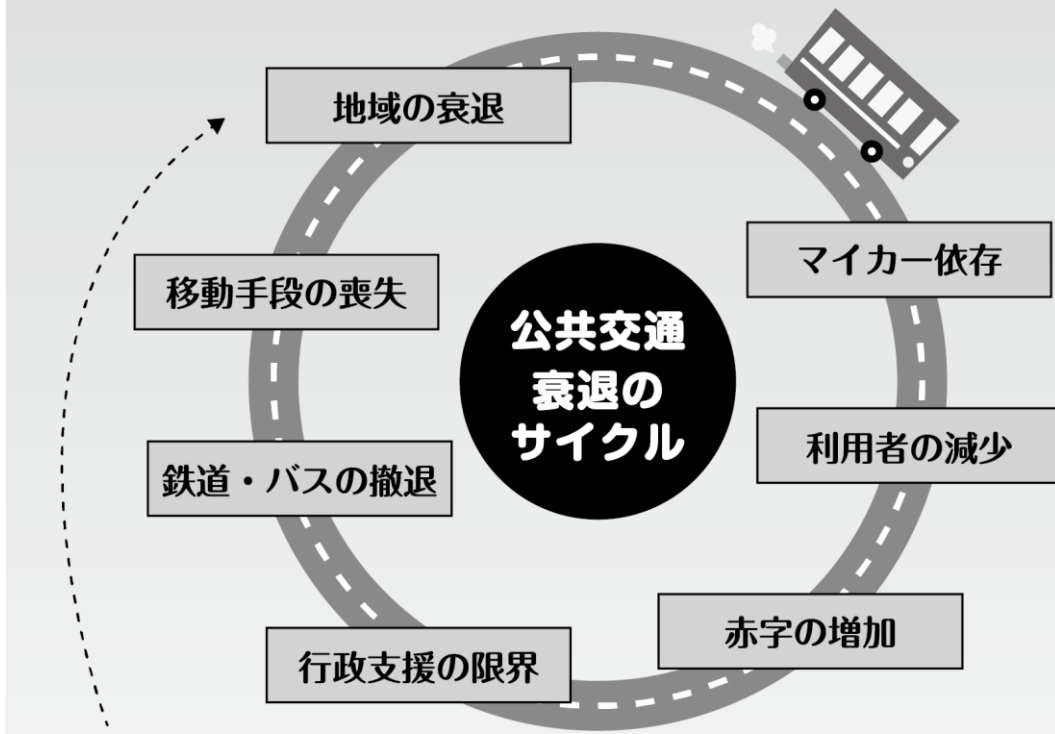
鉄道やバスなどの公共交通は、市内や市外の学校に通学する高校生や、運転免許を持たない高齢者や体の不自由な方にとって、日常生活を支える欠かせない移動手段となっています。

## 3 公共交通を未来に残すために

では、公共交通を維持するために、私たちはどのようにすればよいのでしょうか。

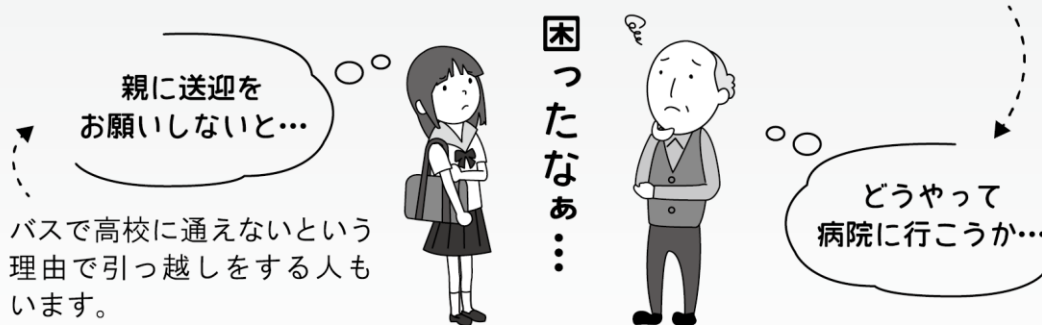
まずは、私たちみんなが、それぞれの意識を変えることです。「自分は利用しないから関係ない」ではなく、「鉄道やバスは、わたしたちの生活を支える生活の足である」という意識を持つことが重要です。

そして、その意識を実際の行動に移し、たまには公共交通を利用して出かけをしてみよう。普段の生活では気づかなかった、新たな発見がきっとあるはずですよ。そうした取組が、現在、利用者数の少ないバス路線などを、将来に残していくことにつながります。



公共交通機関がまったく存在しない地域は不便だという印象を与え、新たに住む人も少なくなり、地域の衰退にもつながります。

免許を持たない高齢者等が公共交通を利用できなくなると、家族がマイカーで送迎する等の負担が増えることにつながります。



現在、元気で自動車を運転できる人は、公共交通について深く考える人は少ないと思います。しかし、わたしたちはいつかは身体的な理由でハンドルを握り続けられなくなります。その時、あなたの身の回りに公共交通がなかったらどうしますか。また、あなた自身や家族にどんな影響が及んでくるのでしょうか。

